

令和7年度 第4回学校運営協議会 及び 第2回コンプライアンス委員会

記録 教務課長

1 日時 令和8年2月18日(水) 10:00~12:00

2 会場 本校校長室

3 参加者

(1) 学校運営協議会委員

常葉大学 初等教育課程 講師

弁護士法人 ましろ総合法律事務所 代表弁護士

静岡県障害者協会 静岡県障害者相談支援推進センター 事務局長

本校PTA会長

(2) 本校職員

校長、副校長、教頭、事務長、部主事(小・中・高)、教務課長

4 会議次第

(1) 開会

(2) 協議Ⅰ 令和7年度の学校経営報告について

(3) 協議Ⅱ 令和8年度「目指す学校像」について

(4) 第2回コンプライアンス委員会

(5) 閉会

5 会議内容

(1) 開会

ア 校長挨拶

- ・校舎の建替工事が一時中止になった。物価高騰のこの時勢の影響を受け、業者が決まらなかった。また、土壌調査の結果から、土壌改良整備が必要となり、それには3年から4年かかることが分かった。従って、完成予定が令和17年から18年にずれ込むことになり、児童生徒の学習保障という観点からも検討し、一時中止ということになった。その代替として、移転も含めて検討していくということも挙がっている。学校やPTAは、教育委員会に移転先の早期決定をお願いした。この建替工場の一時中止については、第3回学校運営協議会で伝えるべきだったが、中央特別支援学校との共同開催だったため、今回の報告となった。
- ・先日、静北祭ウィークを開催した。インフルエンザの流行と重なったが、早めの感染拡大予防対策をとり、フィナーレは全校で行うことができた。児童生徒が日々積み上げてきたものが開花していく時期を見逃さないようにしたいと感じた。児童生徒への言葉掛けや見守りを大切にしていきたい。日々、児童生徒からご褒美をいただいております。教師になって良かったと感じられることがたくさんある。学校として、この時期の大切さを意識しながら来年度につなげていきたい。

イ 日程説明

(2) 協議 I

ア 令和7年度の学校経営評価について

(ア) 令和7年度を取組と自己評価の報告【教頭】

- ・評価の表記について、例えば、取組目標「学校体制でのカリキュラムマネジメントの推進」では、「年間指導計画を活用し、系統性・教科横断的な視点で見直しや授業づくりの工夫をすることができる教員97%」という目標に対し、「できた」「概ねできた」と答えた教員の割合が99.1%である。目標97%に対して、99.1%だったので、達成度は102%になるという表記である。達成度を、資料のA B C Dの基準で評価すると102%はAとするという見方になる。
- ・「児童生徒理解に基づく『夢中』と『笑顔』の授業づくり」について、自立活動の目標の使用する「流れ図」を活用し、児童生徒の行動の意味や理由、背景を児童生徒の立場になって考えることを大切にしてきた。
- ・「自他を尊重しあう環境の維持向上」について、本校は挨拶を自慢としており、日ごろから挨拶や感謝の言葉が聞かれている。また、児童生徒の人間関係のトラブルでは、記録シートを使って児童生徒の様子について早くに共有し、早期対応につなげることができた。
- ・「未然防止への行動力と有事への対応力の向上」について、ヒヤリハットの情報共有や、各種訓練の実施により、想像力を働かせ、「自分ごと」として考えることができた。教職員の危機管理能力が向上し、手引きやマニュアルを基本とした上で、その時その場でどうすればよいかを考えて行動することにつながっている。手引きやマニュアルは、その都度反省をもとに改善し、より実践的な研修や訓練につなげていく。感染症や熱中症対策では、環境整備を確実にを行い、大きなけがや感染拡大を防ぐことができています。
- ・「豊かな地域資源への深い理解とそれを生かした実践、発信」について、授業実践を校内掲示板で共有している。また、ホームページを更新し、児童生徒の様子や活動を情報として発信することができた。

(イ) 質問・意見（・）とそれに対する回答（→）

- ・教員の評価は高いが、児童生徒の評価は80%台となっており、差がある。「先生方はできている。」と思っているが、児童生徒は「できていない。」と思っているのか。
→私たちは、児童生徒の思いを汲んで授業づくりをしているが、児童生徒自身が達成感を感じるという点においては、授業づくりで理解を深めていきたい。
- 児童生徒一人ひとりにアンケートを取っている。中には、アンケートの質問がよく分からないという意味で「分からない」「？」という回答をしている児童生徒もいる。そのため、「できていない。」ということではない。
- 授業のすぐ後に振り返りを行っているが、この評価に係るアンケートは、時間がたってから行っているため、こういった結果の要因になっている。
- ・会議前に資料を配付できたが、ペーパーレス化という手段が目的になってしまったということについて、もう少し詳しく知りたい。
→会議参加者には、会議前に資料を読み込んでもらい参加してほしいという思いがあり、事前に資料提示しているが、会議の間近になってしまうこともあり、協議のポイントを事前に伝えるなどの工夫が十分にできていない。ペーパーレス化は達成できているが、資料を活用した会議の参加という点においては課題。
- ・資料を受け取る側が見やすい情報にする、見やすく作る工夫が必要。
- ・資料の要約版があるとよい。余談だが、知的障害のある方へのアンケートで、QRコー

ドを使ったり、別の画面に誘導したりして回答していただくものがあり、とても難しくなっている。

- クラスルームを使って資料提示する時には、「こういう話し合いができるとうい。」「資料のここをよく読んでほしい。」などのコメントを添えるようにし、工夫し始めているところ。もう少し力を入れてやれば、学校全体で変わっていくと思う。
- ・ 大学生からもICTやDX化の運用について、意見を聞くことがある。「授業によって出席の出し方や書式が違くと、情報を探らなければならない。」等、意見は様々である。形式の見やすさが話題になったが、大まかなルールがあると良い。
- ・ 内容によっては、データよりも紙媒体の方が理解しやすいものもある。紙媒体で読むと、改めて気づく部分があることもある。
- 小学部では学年会でクラスルームを活用している。会議の資料はクラスルームの方がたくさん見られるし、カラーで見やすいというところもある。授業カードは書き込みながら使った方がいいという声も聞かれる。使い分けをするのが良いのではないかという意見がある。
- 中学部では、学年会はクラスルームを活用している。話し合いの進捗や記録が分からないので、最終的には紙媒体で提出してもらおう。データと紙媒体のそれぞれの必要性と良さを取っていきたい。
- 高等部でも学部会、学年会はクラスルームを使っている。データでは資料の内容が頭に残りにくい。クラスルームを使うが、紙媒体に残るような形にしている。来年度に向けて、「要点や論点整理をして検討事項を明確化しよう。」ということにしている。
- ・ 連携に関して、育成会の相談窓口には、小中学校の支援級の関係者からの相談が多い。特別支援学校の仕組みを含めた情報を提供するといったことはあるのか。
- 入学者に対しては、入学説明会を行う。中学校に対しては、中学2年生を対象に高等部の概要説明や体験入学を行い、卒業後の進路情報についても情報提供を行っている。今年新たに、支援学級に在籍している小学生の保護者や先生方を対象に話をする機会をいただいた。
- ・ 保護者はもちろん、当事者や先生方も困っているのではないかと思うので、静岡市教育委員会には、障害者協会の方から投げ掛けをしてお手伝いをしたい。
- ・ 安全・安心に関して、数年前に県内でバス内に幼児が取り残された事件があった。マニュアルがなかったり、危機が発生したりした場合に誰が対応してもよいようにしておく必要がある。
- 本校では、バスの降車後の確認をした上で、管理職がチェックするやり方を決めて行っている。慣れが出てくると、抜けてしまうこともあるので、時々見直すことも必要だと考える。
- ・ 保護者の立場からは、GPSでスクールバスの位置を把握できたらいいと思っている。
- スクールバス運行中に災害が起きた時の一次避難については、地域の様々な施設と連携し、「一時的に非難をさせてほしい。」と依頼をしている。その場ではスクールバス介助員や運転手の判断で避難等必要な対応をしていくが、学校として、細かい情報を把握するためにGPSは必要かもしれない。
- 例えば、小型の位置追跡タグをスクールバス介助員が携帯するリュックサックに付ける案も考えている。
- スクールバス介助員に防災無線を持って乗車してもらっている。
- ・ 「麻活」についての発信について、情報の更新にはパワーが必要。運用状況はどうか。
- ホームページについて掲載計画を作成して対応している。その他、お便りやCOCOOで、ホームページに記事を掲載したことをお知らせしている。情報の受け手と、発信す

る情報の内容を整理して、各ツールを活用していきたい。そうすることで、様々な方面の側にもうまく情報が伝わっていくと考える。

→ホームページだけでは伝わり切らないこともある。そこで高等部では「開かれた学校」という観点も大切に、授業を直接見ていただける機会を増やしたいと考えている。

→SNSを活用し、ホームページに誘導する方法もある。ルールを作り、管理しながら使えるとよい。

・ホームページは時々見ているが、もっと見やすくなるとよい。

→県の規定や決められたフレームがあり、制限がある中で作成している。本校では「あさちゅー」やイラストを載せている。見せ方の部分で各校に任されているところもあるので、可能な範囲で工夫したい。

・色やデザインがおしゃれになるとよい。

・ホームページを見る方はあまりいないと思うので、SNSを積極的に活用した方が保護者も見やすいと思う。

・専門業者によると、「見られるホームページ」と「読まれないホームページ」があるとのことだった。

(3) 協議Ⅱ

ア 令和8年度の学校経営計画について

(ア) 令和8年度「目指す学校像」について【校長】

・今年度、安全で安心な環境を整えることをベースにして、専門性によって確かな実態把握のもとに目標設定をしたり、授業づくりを工夫したりすることで、児童生徒の成長につなげることができた。また、児童生徒を真ん中において、関係機関が連携することができた。そのため、来年度は、今年度の学校経営計画から大きく変えず、定着させていきたい。「当たり前なことを、当たり前でやれる学校」は最先端なのではないかと考えた。4月になり、校内のメンバーが変わってもきちんと引き継いで大切にしていきたい。

・個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成の中で、AIを導入して使用していくことになる。これは、児童生徒の実態を的確に把握してAIを活用することが求められており、教員同士が児童生徒について、よく話し合う時間を大切にするためのものとなる。

『『なごやかに おだやかに』教育の魅力を語り合う仲間』を目指す教師像とし、児童生徒を真ん中にして、たくさん語り合うことを大切にしていきたい。

(イ) 質問・意見（・）とそれに対する回答（→）

・（特になし）

→

※学校経営計画について、学校運営協議会員の皆様の承認が得られた。

(4) 第2回コンプライアンス委員会

ア 不祥事根絶への取組報告【教頭】

(ア) 不祥事根絶全般、交通安全について

・不祥事根絶のための取組計画を立てて実施した。長期休業前には服務について再確認するとともに、自分自身の言動を振り返る機会を設けた。交通安全については、退勤前に職員が順番で交通安全に関するコメントを放送で伝える取組も行っている。現時点で、本校では大きな不祥事は起きていない。

・交通事故、個人情報の取り扱い、児童生徒への接し方等は、年間を通して掲示板やセル

フチェック、研修動画の視聴を行い、定期的な投げ掛けをしている。

- ・2月に行ったセクハラ・体罰アンケートの結果、セクハラや体罰は認められていない。
- ・人権ワークでは、学年で『普通』とは何か。等のテーマでグループワークを行った。ワークを通し、いろいろな人の考え方があるのだと認め合うことができ、人権に対する意識を高めることができた。
- ・不祥事にはストレスなど心理的なものが大きく関係していると思う。校内で自然に交わされる挨拶や、お互いを尊重し認め合うことを大切にし、職員がやりがいをもって働くことのできる職場を目指していきたい。

(4) 質問・意見（・）とそれに対する回答（→）

- ・セクハラなどには一定の基準がありますが、相手が嫌だ思うかどうかというところを認識できるかが大切。グループワークでその基準を学ぶ方法もあるが、一緒に働いている仲間がどのように思っているのかを知るというのも大切にしたい。
- 様々な機会を捉え、ワークを行っていくとともに、自分の意見や感想を普段から伝え合ったり、認め合えるような雰囲気職場づくりをしていきたい。
- ・不祥事根絶に関係することの研修などは、楽しく取り組めるとよい。働きがいをもってお互いに笑顔でいられたらいい。業務の効率化と、生産性が混同している中でも職場でのコミュニケーションは大切にしてほしい。
- ・教員同士の飲み会など、そこでのトラブルは不祥事に値するのか。
- 飲み会に行くことはあります。
- 学校では、いわゆる飲み会の強制はしていない。以前に比べたら機会が減った。
- ・人権に関して、自分のパワーに気付かずに振るまっていることもある。人柄と気さくさ、パワーが混同してしまうケースもある。年代が変わるとそのラインも違う。

(5) 閉会

ア 連絡

- ・資料に、令和8年度の学校運営協議会の日程を載せた。第2回（中特支との合同）は11月5日（木）の開催となる。【副校長】

イ 校長挨拶

- ・意見をたくさんいただいて活発な協議ができた。学校経営評価の、児童生徒と教員のアンケート結果のずれについては、分かりやすい聞き方を工夫していく。本日はお忙しい中、ありがとうございました。来年度もよろしくお願いします。
- ・PTA会長がベルテックス静岡と本校とをつなげてくださった。スタッフの方の協力を得ながら、アート活動を行い、試合会場で使っていただくバナーを作成した。2月、3月の試合観戦に招待して下さり、児童生徒が応募させていただいた。ありがとうございます。